

つながり

人と人が
やさしさでつながり、
助け合える
「まち、暮らし」



貧困

まちづくり

生産・消費

パートナーシップ



「明石市 おむつ定期便」 宅配業務スタート!

2020年10月、明石市が実施する「明石市おむつ定期便」の業務を受託し、明石市内にお住まいの0歳児を持つ家庭(約2400世帯)に、月に1回おむつなどの「赤ちゃん用品」を無料で宅配するサービスを開始しました。商品を届けるだけではなく、定期的に訪問することで、困りごとや健康状態の確認などの見守り、子育て情報の提供を行い、地域のつながり作りを進めています。

第2回「わたしのSDGs アクションコンテスト」

SDGsの目指す持続可能な未来に向けて、環境、福祉、防災などの活動に取り組んでいる団体・個人から活動事例を募集。第2回目となる今回も多数の応募があり、2021年2月27日、その中から一次選考会を通過した8組(団体・個人)による、オンラインプレゼン大会を開催。50人以上が視聴し、視聴者投票を交えた審査の結果、グランプリは「GPSプロギング」の志水直樹さん、準グランプリは「SDGsゆたかるた」の神戸動植物環境専門学校に決定。地域でのSDGsの理解と取り組みの環を広げる機会となりました。



GPSを使い、歩いた軌跡で
地図上に文字を描く

「GPSプロギング」
の様子

SDGsに関連した学習会を 各地で開催

毎年組員や地域を対象とした学習会を開催しており、2020年度はSDGsに関連した学習メニューを充実させました。特に各地の店舗や協同購入センターを活動拠点とする地域コープ委員会では、十分な感染対策を講じ、2020年度活動を再開した下半期だけでも207件の学習会を開催。脱プラスチック、地球温暖化などの環境問題や防災、女性や子どもが抱える問題など、社会課題に目を向けた学習会を開催し、意識を高める学びが広がりました。



天気予報と気象災害の学習会の様子
(11月18日野間地域コープ委員会)

コープのつどい場 「わになーれにしきた」がオープン

コープ北口食彩館の改装に伴い、2020年10月30日に地域の皆さまのつどい場「わになーれにしきた」がオープンしました。誰もがほっとくつろげるスペースとして、これから地域の皆さまと一緒に育てていきます。さらに2021年6月オープン予定の「コープ西宮南」でも、新たな地域のつどい場に向け、地元地域の皆さまとのワークショップを行い、つながりを深めています。



地域コープ委員、子育てサークルメンバー、組合員理事、店長によるテープカット

買い物支援を通じて 持続可能な地域づくり

買い物困難の課題に対処すべく、2011年に「移動店舗」をスタートし、現在9台が稼働。年間で10万人以上の方が利用されており、停留所では井戸端会議が行われるなどつながりが広がっています。また、自宅から店舗までを送迎する「買いもん行こカー」は年々利用者が増加。2016年に事業がスタートして以降現在では2000人以上の方が登録、23店舗で21台が運行しています。



買いもん行こカー乗降時の様子

被災地支援の輪が拡大

令和2年7月豪雨災害被災地へ 緊急募金を寄贈

停滞する梅雨前線により九州から中部地方の広範囲にわたり、甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨災害。2020年7月に緊急募金を実施し、6672万6543円が集まり、日本生活協同組合連合会などを通じて支援金として活用されました。

ハート基金による被災地支援

令和2年7月豪雨災害で被災した地域の復旧支援として、ハート基金※を拠出しました。

拠出金は、被災地NGO協働センター、熊本県社会福祉協議会、福岡県社会福祉協議会、大分県社会福祉協議会、岐阜県社会福祉協議会、山形県社会福祉協議会に拠出され、地域に設置されたボランティアセンターの運営費用などに活用されました。

※ハート基金：コープこうべ災害緊急支援基金

被災地へのタオル寄贈

令和2年7月豪雨災害で被災した地域の生協へ、備蓄していたタオル約3200枚を寄贈しました。また、水害発生地域への支援とともに、コープこうべの活動エリアが被災した際に備え、タオル備蓄の取り組みを開始しました。



組合員から提供されたタオル

第29回「コープこうべ虹の賞」の受賞者が決まりました

コープこうべ虹の賞は、1991年創立70周年を記念して設立され、心豊かに暮らせる地域社会づくりに大きく貢献した市民活動や、今後の発展が期待される市民活動を奨励し、顕彰しています。2021年度は功労賞(6団体)と奨励賞(9団体)を表彰しました。

功労賞

- NPO法人月と風と
- 兵庫県立舞子高等学校天文気象部
- NPO法人ほっとネット373
- 長沢コミュニティバス運行委員会
- 日笠山のじぎく園
- 尼崎子ども劇場

奨励賞

- コープサークルかわいいうさぎ
- NPO法人アートゆるり
- ボランティアグループ食deつながろ
- 被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」
- 兵庫県立松陽高等学校SDGs Project Team
- みんなで減災し隊!
- さとのわ
- トコトコくらぶ
- 諏訪山森の会

地域とつながる「大庄元気むら2020文化祭」を開催!

営業終了後の店舗を活用し、オープンした尼崎市大庄地域のつどい場「大庄元気むら～コープさんとこ」では、2020年12月に地元高校生が地域とつながる「大庄元気むら2020文化祭」を開催しました。

新型コロナウイルス感染で中止となった高校の文化祭に出演予定だった部活動の発表を中心に、地域の方もステージに上がり参加しました。また、近隣の福祉施設にはオンラインで配信し、地域と交流を深めました。“コロナ禍だから「できない」ではなく「できる」ように工夫し実行できたのは素晴らしかった”と皆さまの声もいただきました。



地元高校生の発表の様子

組合員とのインターネットを活用した交流が深まりました

新型コロナウイルスの影響を受け、2020年5月以降、インターネットを活用した交流イベントやインスタライブなどによる活動参加を積極的に進めました。コープこうべアプリのコープTOUCH投票企画では、のべ5万8000人以上が参加。4500通を超えるコメント投稿がありました。



投票企画でも情報交流

新制度での地域コープ委員会活動がスタート

各地の店舗や協同購入センターを活動拠点とした、組合員が自主自発で参加する地域コープ委員会を展開しています。約140ある地域コープ委員会では「商品」「食」「環境」などのテーマに沿って、学び・伝え・広げる活動をしています。

2020年度、新型コロナウイルスの影響を受け、地域コープ委員会は4月から6月末まで従来の活動を中止しましたが、7月以降は感染対策を講じた上で、順次再開。これまでの地域エリアの制限を無くした新たな制度の中、子どもが主役の子どもコープ委員会など新たな委員会が仲間に加わり、組合員活動の輪が広がりました。



大好きなバナナでSDGsを学んだ子どもたち

使わなくなったおもちゃを 次の世代に

2020年8月、第3地区本部(神戸市)が子どもが成長するにつれ使わなくなったおもちゃを機関紙『きょうどう』で募集し、たくさんのおもちゃが集まりました。集まったおもちゃはコープ子育てひろばで活用するほか、社会福祉法人「神戸真生塾子ども家庭支援センター」に寄贈。後日、お礼のお便りを頂くなど、地域のやさしさが子どもの笑顔につながりました。



贈られたおもちゃで遊ぶ子どもたち

子育て世代向け企画 「はじめてばこ」の取り組み拡大

2019年、サンテレビの企画として“おめでとう”“生まれてきてくれてありがとう”の感謝の気持ちと、協賛各社からの商品を「はじめてばこ」に詰め込んで生まれてくる子ども達にプレゼントする子育て支援企画がスタート。“箱のデザインがかわいい!”“いろいろ入っていて実用的なところがgood”“はじめてばこの箱に子どもの思い出を詰め込んでいくって素敵!”など、InstagramなどのSNSで、うれしいお声をいただいています。

特に兵庫県をモチーフとした箱のデザイン(コウノトリ・明石タコ・阪神タイガースなど)が好評です。

2020年度は、7130軒のご応募があり、うち789軒の方に宅配加入いただきました。たくさんの方が笑顔になれるよう“おめでとう”の気持ちを込めて、これからも「はじめてばこ」をお届けいたします。



「たつの市／はつらつベビー まごころ便」宅配業務開始

2020年8月、たつの市が実施する業務を受託し、「たつの市／はつらつベビーまごころ便」の宅配を開始しました。

たつの市にお住まいの0歳児をもつ家庭(約500世帯)を対象に生後2カ月目と5カ月目に、紙おむつや離乳食、ミルクなどの育児用品を届けるサービスで、子育ての気配りを気軽に相談していただき、赤ちゃんと保護者の見守りを行っています。



紙おむつなど育児用品をお届け

「第5回居場所サミットin神戸」を 開催

2020年8月、公益財団法人コープともしびボランティア振興財団やNPO団体などと協働で、「第5回居場所サミットin神戸～ウィズコロナ時代に求められる居場所づくり～」を開催。インターネット参加を含む209人が参加しました。講師に社会活動家の湯浅誠氏を迎えて、ウィズコロナ時代に求められる居場所の意義やあり方について再考し、明日へのステップとなるよう、参加者みんなで知恵を出し合いました。



第5回居場所サミットin神戸

エシカル消費

コープのエシカルとは誰かの笑顔につながるお買い物。
「自分のため」だけでなく「自分以外のため」…そんな気持ちに支えられるエシカル消費。
コープこうべでは4つの視点を大切に取り組んでいます。



／ コープこうべの4つの視点 ／

私たちのお買い物で…

公正な**社会**の
仕組みが作り出せたら

社会インフラの改善や
社会的公正の実現につながる



●働く場を作り、収入の安定や
子どもの教育機会を創出

私たちのお買い物で…

豊かな**地域**を
作り出せたら

地域の担い手や生産者の支援、
被災地域復興などにつながる



●地元の食材を利用することで、
一次産業を元気に

私たちのお買い物で…

地球**環境**を守り続ける
ことができれば

持続可能な
社会づくりにつながる



●食べる人、作る人、作る環境に
配慮した食べものの作り

私たちのお買い物で…

人々の「生きる」を
支えることができれば

くらしの問題の解決や
生きづらさを抱える人たちへの
支援につながる



●コープこうべの夕食サポート『ま
いくる』1食あたり0.5円を、「(公
財)コープともしびボランティア
振興財団」に寄付しています

コープスフレンドリーバナナ 産地とつながって人気No.1商品に!

「子どもに安心してバナナを食べさせたい」という組合
員の声を受けて1993年に誕生したフレンドリーバナナ。
できるだけ農業に頼らない栽培をめざして、フィリピン・
ビスカイヤ農園のスタッフと試行錯誤を重ねて、今では
コープこうべ人気No.1のコープ商品に育ちました。

2020年「秋のコープ商品総選挙」では、堂々第1位に
輝きました。また2018年にはフレンドリーバナナ25周
年を記念してビスカイヤ農園の生産者にメッセージを
募集、組合員から1400通もの感謝の気持ちが寄せられ
ました。



マスコットキャラクター「フレンドリーくん」を囲んで

フードプラン特別栽培米 兵庫県産コシヒカリ つちかおり 親子で米づくり体験

1988年にいち早く環境に配慮した栽培で生産したつ
ちかおり。2015年から組合員の親子が産地の但馬で田
植え、生きもの調査、稲刈りなど一連の米づくりを体験す
ることで、食と環境のつながりを学んでいます。2020年
度は新型コロナウイルスの影響で中止。田植え準備の田
おこしや田んぼの畦の草刈りなどの農作業やビオトープ
づくりにコープこうべ職員、JA関連職員が参加していま
す。秋に産地の但馬と神戸をZoom(オンライン会議シス
テム)でつないで生産者と組合員親子が交流しました。



つちかおりの産地と神戸をオンラインでつないで交流

フードプラン産地・生産者とのオンライン交流

Zoom(オンライン会議システム)を活用し“産地に行きたいけど行けない”、“産地に来てほしいけど遠方なので難しい”という組合員と生産者の要望をマッチングする取り組みを開始しました。



北海道訓子府産地とのZoom交流会の様子

くねっぶ
フードプランつちかおり、北海道訓子府のじゃがいも・たまねぎ、おおや高原有機野菜の産地交流を実施し、約300人の組合員、職員、生産者が参加しました。新型コロナウイルスの影響への対応だけでなく、今まで参加できなかった組合員と生産者が気軽に参加できるオンライン交流を今後も活用し、より多くの組合員、生産者の交流・コミュニケーションの場を広げていきます。

地域との取り組み

「兵庫県の食材をもっと大切にしたい」という組合員の声に応えて2010年に誕生した「ひようご発」シリーズ。「ひようご発」マークの商品の利用は、兵庫県内の生産者への経済的な支援につながります。

また組合員と生産者との交流を通じて、顔が見える信頼関係や同じ地域に暮らす一体感を育んでいます。

近年、瀬戸内海の栄養不足で養殖ノリの色落ちが問題に。そこで南あわじ市での「かいぼり」に参加し、地元の漁業者と農業者、市・県職員、大学生、地元企業とともに農業用ため池にたまった栄養たっぷりの泥を海に流すことで豊かな海づくりに取り組んでいます。



南あわじ市のため池の「かいぼり」の様子

食品工場の地産地消の取り組み

六甲アイランド食品工場では持続可能な社会の実現に向けて、健康、環境、地域にお役立ちする取り組みを進めています。コープス神戸ブレッドは、地元兵庫県産の小麦の使用量を2021年度より現行の3%から6%に高め、地域の農業を応援しています。



神戸ブレッド

岩手県田老町漁協との震災を通じた交流

「コープス芯付き塩わかめ」の産地、岩手県宮古市の田老地区は、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受け、震災直後にコープこうべの職員が組合員の励ましのメッセージを持って訪問しました。また、その後も生産者が神戸を訪れ学習や交流会を行うなど、人と人との交流を大切にしています。

また、豊かな海は豊かな森がすることから、田老町漁協では1992年から水源となる山に広葉樹の植樹活動を行っています。2014年から毎年、コープこうべの職員も参加しています(2020年は新型コロナウイルスの影響で中止)。

2018年からは田老町漁協産わかめ1品購入につき3円を田老町漁協に寄付(期間限定で2020年は12万702円)。豊かな海を将来に残すための植樹活動などに活用されます。



岩手県宮古市田老町漁協にて